

平成23年度 シラバス	学年・期間・区分	3年次・通年・A群		
	対象学科・専攻	土木工学科		
設計演習 (Design and Drawing Studio)	担当教員	岡松 道雄 (Okamatsu, Michio) 毛利 洋子 (Mouri, Yoko)		
	教員室	都市環境デザイン工学科棟3階 (Tel. 42-9122)		
	E-Mail	okamatsu@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習 / 履修単位 / 2単位			
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 30回			
〔本科目の目標〕 1・2年次の土木中心の専門講義と製図の基礎的な知識を習得したことを踏まえて、建築製図の基礎を習得することを目標とする。講義前半は、フリーハンドによる建築図面の作成からはじめ、図面の意味や製図の必要性を理解する。後半は、日本及び世界の優れた作品を概観し、その中から選んだ作品の模写を行うことで作品の優れた点を肌で覚える。また、意欲のある学生は、オリジナルの作品を作成してもよい。				
〔本科目の位置付け〕 土木・建築そして都市デザインの主要分野に共通する、設計とデザインの素養を身に付けるため、近現代において優れている建築作品を模写することから発案および建築設計の基礎を学ぶ。秀作・名作を深く知ることによって学生の建築に対する興味や創作意欲を喚起し、理解を深める機会と位置づけている。				
〔学習上の留意点〕 オリジナルの作品を作ることは、独自の着想と粘り強い作業を必要とすることが多い。またデザインは生まれつきの素養によるところもあるが、過去の事例に学び、9割以上はコツコツと地道な作業を積み重ねて、構築物の安全性や機能・性能を追求し、各部の要素を統合する行為でもある。途中で投げ出さずに模写する建築の空間や形態を、最終的に図面として表現するように取り組む姿勢が大切である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容	
1. 設計演習ガイダンス 建築における製図の役割	2	年間課題と学習目的の説明を理解できる 建築に於ける製図の役割が理解できる	教科書p6～p24について概略を把握しておく	
2. フリーハンド図の作成	2	フリーハンドで身近なものを表現できる		
3. 建築製図の基礎・製図用具 線と文字の練習	4	製図の基礎・道具の使い方を理解できる 線および文字の書き方を習得できる		
4. キューブ造形	4	キューブ立体造形を作成できる		
5. 三面図の作成	4	キューブ立体の三面図を作成できる		
6. 立体図法 (各種投影図)	4	透視投影図 (パース) を含む各種投影図を作成できる		
7. 縮尺・開口部・壁の種類と描き方 製図規約・材料・構造表示記号	4	縮尺の持つ意味、縮尺ごとの表現の違い、その描き分けと製図規約が理解できる		教科書p25～p45について概略を把握しておく
8. 図面の意味・平面図の描き方 平面図・配置図の作成	4	平面図の意味を理解し、描き順、線の意味などを意識しながら描く(1/100)ことができる		
(前期中間期末試験は行わない) 課題作品採点返却	2	提出した課題作品について講評を聴き客観的に自己評価できる		
9. 断面図の意味・描き方・作成	4	断面図の役割を理解し、描き順、線の意味などを意識しながら描く(1/100)ことができる		
10. 立面図・屋根伏せ図の描き方	4	立面図・屋根伏せの役割を理解し、描き順、線の意味などを意識しながら描く(1/100)ことができる		
11. 住宅模型の製作	4	これまでに描いた図面をもとに、起こし絵の要領で模型を制作する(1/100)ことができる		教科書p46～p49について概略を把握しておく
12. 空間デザイン演習	12	エスキースチェックを受けながら課題作品を作成できる		教科書p50～p85について概略を把握しておく
13. プレゼンテーション	4	課題作品についてまとめ、発表できる		
(後期中間期末試験は行わない) 課題作品採点返却	2	作品 (図面・パース・模型) について担当教員から講評を受け自作を客観的に評価することができる		

